

A watercolor landscape painting with a central vertical crease. The top half features a bright yellow and green sky with several blue, cloud-like shapes. The middle section shows a blue body of water with a white wake, surrounded by green and brown landmasses. The bottom half is dominated by large, rounded, pinkish-red shapes, possibly representing hills or flowers. The overall style is soft and textured.

南漕会創立50周年記念

第8回 **南漕会合唱団演奏会**

1990. 3. 10(±) PM 6:00

朝日生命ホール





第9回五つのOB男声合唱の集い 1989年6月3日 大阪国際交流センター大ホール

## ご 挨拶

私たち南漣会合唱団は、母校の創立百周年を契機に再編し、爾後、隔年ごとの発表を恒例化してまいりましたが、本日ここに、通算第8回演奏会を開催する運びとなりました。これも偏に、母校大阪市立大学学長・崎山耕作先生、商大グリー時代以来の旧師・加藤直四郎先生をはじめ、ご関係の皆様方ならびに南漣会会員各位から寄せられた物心両面にわたるご支援、ご指導の賜物と、心から深く感謝申し上げます。

南漣会は、本年創立50周年を迎えました。今回は、その記念として行なうとともに、昨秋急逝された故金子仁作先輩追悼のステージを構成いたしました。南漣会の創始者であり、名付け親であり、そして、南漣会発展の基盤をつくられた金子先輩の多大のご功績を偲んで、このステージには、ご参会のOBメンバー各位、現役グリークラブの諸君にも参加願ひ、先輩みずからの作詞になる『学生歌』と『学園』をご霊前に捧げ、哀悼の誠を捧げたいと思います。

今回もまた恒例により、みおぎ会に賛助出演を、そしてその指揮者・松平季子先生には金子先輩追悼ステージでミサ曲のソロを、お願いしております。いつもながらの友情に深く感謝いたします。

今回も、20名そここの数で、練習不足をかちながら、何とか開催にこぎつけました。メンバーの確保と固定化に悩むOB合唱団の宿命は、いづこも同じようです。お聞き苦しい点もあろうかと思いますが、合唱活動に賭ける熱意と努力をお汲み取りいただければ幸いです。ご来聴、ご声援に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願いし、ご挨拶いたします。

南漣会合唱団 団長 上 田 稔

## MESSAGE

## 第8回南漣会合唱団演奏会を祝して

大阪市立大学  
学 長

崎 山 耕 作

南漣会創立50周年と合唱団の第8回演奏会の開催を、お祝い申し上げます。今年も、懐かしい日本の歌からはじまって黒人霊歌など、みおぎ会の参加もえて、私たちの耳をたのしませ、心をゆさぶる機会を与えられることに感謝します。今年はとくに、昨年秋物故された金子仁作先輩の追悼のプログラムが組まれています。早すぎた金子さんの御死去を惜しむとともに、グリークラブと南漣会の活動に尽くされた金子さんを偲んで、心のこもった会となることを祈ります。

社会人となっても、歌をはなさず、歌を通じて相互に交わりを深めるだけでなく、聴く人々をもつつみこんで、美しい世界をくりひろげられる南漣会に対して、心から敬意を表しています。

大阪市の文化の不毛について、世評でよくいわれます。しかし、この南漣会の存在こそは、めいめいが草の根からつくりだす、ほんとうの文化ではないでしょうか。さらに大きく集まって、大阪の文化のうねりとなって高まっていくことを、期待したいと思います。ご盛會を祈ります。

関西合唱連盟  
最高顧問

加藤直四郎

今回の第8回演奏会が、南漣会創立50周年に当られます由、誠におめでとうござい  
ます。

その昔に思いを馳せると、先輩諸氏の御活躍振りが眼に浮んで、心洗われる思いが致します。と同時に、それを受けて、今の南漣会の確立に努力された皆様との歴史的繋がり  
の重みを、改めて痛感させられます。

小生が南漣会との遇を得ましたのは、且て金子仁作さんの作詞した『学園』に作曲を依頼されたことに肇ま  
ります。それが現在も「学園歌」として、高らかに歌われていることを、誠に光榮に存じます。

今日の曲目を拝見して、各ステージ共、高レベルであり、而も、限られた人数での御挑戦に強い情熱が感じられて、痛快です。出来ればこの50周年を機会に、今後毎年1回の定演が実行されるようになればと、願って居ります。

ここに、当日の立派な御成果を、心から御期待すると共に、南漣会の一層の御発展を祈って、御祝いの言葉と致します。

アンコールの会幹事  
六甲男声合唱団

渡 辺 政 雄

おじさま達、よく頑張るねー。というのがいつわりのない気持である。

なかにヤングも一部混じるとはいえ、平均年齢ウン十歳。暗譜などもってのほか、楽譜（それも拡大したもの）を精いっぱい身体から離し、指揮者などろくろく見てもいないような顔をして、それでもさすがに年の功か勘どころは外さず、立派に歌いあげる。歌で感動させるのは技術だけではないな、というのがよく分かるのである。

私もある合唱団に所属しているが、大学のOBクラブなどというのは、何しろメンバーが毎日忙しい。とてもじゃないが、単独でコンサートなど持てるわけがない……と思いついでいるのだが、このおじさま達に会うとそれをやっている。しかも何回も続けて。我々がだらしのないのか、このおじさま達が変なのか……、きっと両方なんだろうと、いかげんところで納得していた。

そこのところをすこし深く考えると、彼等にはチャレンジする心と遊びの心がちょうどいいバランスで存在していることに気がつく。いつのコンサートにおいても、大概の場合、ワンステージは新曲に挑戦している。我々の場合はそれだけで手いっぱいになってしまうのだが、彼等は、そこに従来からの手持ちの曲（手持ちといえども、かなりの練習が必要なのはいうまでもない）を加え、さらに、麗しき女声合唱なども巧みに配して全ステージを構成する。歌っている方も聴いている方も、まことに楽しいのである。

前回コンサートに寄せた拙文に続き、今回もこの言葉で締めくくりとしたい。「まさに彼等こそ人生の達人である」

# PROGRAMME

## Stage 1.

### 懐かしい日本の名歌

指揮：富増 和彦  
ピアノ：谷岡 理恵

- (1) 花 (武島 羽衣 作詞／滝 廉太郎 作曲)
- (2) 荒城の月 (土井 晩翠 作詞／滝 廉太郎 作曲／平井康三郎 編曲)
- (3) 浜辺の歌 (林 古溪 作詞／成田 為三 作曲／三枝 成章 編曲)
- (4) 石臼の歌 (壺田 花子 作詞／中田 喜直 作曲)
- (5) 雪のふるまを (内村 直也 作詞／中田 喜直 作曲)
- (6) ペチカ (北原 白秋 作詞／山田 耕稼 作曲)

## Stage 2.

### 《みおぎ会》 賛助出演

指揮：松平 季子  
ピアノ：名倉佐紀子

湯山 昭 作曲

女声合唱曲集「あたらしい季節」から

- (1) 東の風 (薩摩 忠 作詞)
- (2) 山桜桃のうた (近江 靖子 作詞)
- (3) 夏はファンキィ (保富 康午 作詞)
- (4) 砂時計のうた (近江 靖子 作詞)
- (5) あたらしい季節 (薩摩 忠 作詞)

## INTERMISSION

### 学 ま な び や 園

—大阪商科大学に寄す—  
金子仁作 作詞

城南の青き広野に  
新しき芽生えの  
一つ  
おどかに清らけく  
さやぎつ此処に幾歳月  
緑濃き大樹となる  
蔭するき葉かげ求め  
集い寄る若き学徒  
その瞳望みに燃え  
何をか語りはたはまた  
何をか想ううなだれて  
夢多き短き春を惜しみて哉  
その貴きを惜しみて哉  
東のあけの旗雲は  
流れつつ黒ずみゆきし  
あまたたび移ろいすれど  
緑濃き城南の大樹  
常に広野にたたずみてあり  
懐かしき我等が  
城南のまなびや

(昭和十五年)

『学園』は、新制大学に移行後も、大阪市立大学に寄せられたものとして、グリークラブ・南漕会で歌い継がれてきました。

## Stage 3.

### 故金子仁作先輩に捧げる追悼の歌

指揮：今西 弘一

〈南漕会合唱団／みおぎ会 合同〉

- (1) 「聖チエチリアミサ曲」から C. グノー 作曲  
Benedictus / Agnus Dei

(ソプラノ：松平 季子／テノール：新 栄一郎／ピアノ：谷岡 理恵)

〈南漕会／大阪市立大学グリークラブ 合同〉

- (2) 学 生 歌 (金子 仁作<sup>ほか</sup>作詞／平井康三郎 作曲)
- (3) 学 園 (金子 仁作 作詞／加藤直四郎 作曲)

## Stage 4.

### 三声のミサ曲

指揮：上柴 克

William Byrd 作曲

Kyrie eleison / Gloria / Sanctus / Benedictus / Agnus Dei

## Stage 5.

### Sea Chanty と Negro Spirituals

指揮：今西 弘一

〈Sea Chanty〉

- (1) Senandoah (M. Bartholomew 編曲)
- (2) Erie Canal (福永陽一郎 編曲)  
(バリトン・ソロ：中川 泰治)
- (3) Sailing, Sailing (大阪メンズ・コーラス 編曲)  
(バリトン・ソロ：桂 貞夫／マンドリン：今西 真理)

〈Negro Spiritual〉

- (1) Nobody Knows de Trouble I See (L. de Paur 編曲)  
(バリトン・ソロ：中川 泰治)
- (2) Dry Bones (L. Gearhart 作曲)  
(ピアノ：谷岡 理恵／ベース：杉原浩太郎)
- (3) Let My People Go (T. Scott 編曲)  
(テノール・ソロ：村上 守男／バリトン・ソロ：桂 貞夫)
- (4) Ride The Chariot (福永陽一郎 編曲)  
(テノール・ソロ：新 栄一郎)



故金子仁作氏

## 故金子仁作先輩の追悼ステージに寄せて

南漕会 会長 中川 泰治

本日の演奏会で、故金子仁作氏（昭和16年卒）の追悼ステージがもたれるに当たり、南漕会の設立、『学生歌』と『学園』の由来など、同氏のご功績を思い起こして、そのご遺徳を偲びたいと思います。

南漕会は、本年創立50周年を迎えましたが、その設立は、昭和15年にさかのぼります。この年、私が予科2年のときでしたが、紀元二千六百年を祝ういろいろな行事があり、われわれもこれを記念して、南漕会の第1回演奏会を大阪ガスビルホールで開催しました。これが南漕会の始まりであり、その中心的・指導的役割を果たされたのが、当の金子氏でした。南漕会とは、現役部員とOBとが今後定期的に演奏会をもつことを前提にして付けられた名称でしたが、いつの頃からか、グリークラブ出身のOB組織として存続し、今日に至っています。とくに10年前の母校創立百周年を契機に、南漕会を母体とした合唱団が再編され、その活動成果を発表する機会として演奏会の開催が定例化していることは、創設時の意図に則するものであり、今後とも継続してもらいたいと思います。因に、南漕会の名称も金子氏の命名によるもので、いうまでもなく、大阪市の市章である「漕」(みおつくし) からとられたものです。

この第1回演奏会に初演するために、二つの曲が作られました。一つは、現在もグリークラブだけでなく、大阪市立大学の歌として歌い継がれている『学生歌』であり、あと一つは、男声合唱曲『学園—大阪商科大学に寄す—』であります。

『学生歌』は、金子氏を中心とした3名の方々の合作による歌詞に、平井保喜氏（現在は本名の平井康三郎を名乗っておられ、高齢ですが健在）が作曲されたものですが、同氏は、周知のとおり数多くの美しい日本歌曲を作られた高名の作曲家で、この方に作曲を依頼するに至ったのは、金子氏のご尽力によるものです。すなわち、金子氏が個人的に参加されていた合唱団（木曜会）の友人のK氏が、平井先生の声楽のお弟子さんであったという関係で、このK氏を通じて依頼されたというように聞いております。さすが平井先生の作曲だけあって、「聞けや大和の清流に 久し歴史の足音を…」と、伝統ある学園環境と学生の使命が格調高く表現された歌詞もさることながら、これに照応した流麗な曲想は、50年を経た今日でも古さは全く感じられず、明るく、しかも重厚な名曲であると思います。どうか、いつまでも歌い継がれてゆくことを望んでやみません。

『学園』は、同じく金子氏の作詞で、これもまた、同氏がK氏の教会の関係から、加藤直四郎先生に作曲を依頼してできた曲であります。「城南の青き広野に 新しき芽生えの一つ おおどかに清らけくさやぎつここにいくとせ 緑濃き大樹となる…」と、杉本町学舎の情景を美しく、やや哀感をただよわせて詠まれ、曲もまた、三つの楽章に分けてドラマティックに仕上げられています。われわれは、その一節々々をかみしめるようにして感動しながら、今こそ私たちは青春のまっ直中にいるんだ、という幸せを味わって歌ったものでした。最近の現役グリークラブでは、この曲があまり歌われていないように聞いていますが、ぜひ復活して、いつでもわれわれOBと一緒に歌える曲として残していただきたいと切に願います。この曲こそ、わがグリークラブのために作られたものであり、その伝統を現わす大きな財産と考えるからであります。

このように、グリークラブと南漕会に多大の功績を残された金子仁作氏ですが、昨年9月28日突然、同氏の訃報に接しました。たまたまその少し前、有恒会から私に、同会が本年創立百周年を迎えるに当たり、その記念文集に南漕会のことについて寄稿の依頼があり、その責を果たすため、亡くなられる2日前に当の金子氏と電話でお話をし、資料の送付などのお約束をいただいた直後でした。そのときは病人とは思えぬお元気なお声であっただけに、唯々驚愕し、にわかに信じ難い思いでした。晴天の霹靂とは、このようなことをいうのでしょうか。今なお、哀惜の念去りやらず、痛恨の極みであります。

ここに、金子仁作氏がわがグリークラブと南漕会に残された偉大な遺産をたたえ、そのご恩徳に深く感謝するとともに、み霊安かれと、心から謹んでご冥福をお祈りいたす次第であります。

## 曲目解説

### 懐かしい日本の名歌……

『花』 $\frac{2}{4}$ ・ト長調。江戸の春をほのぼのと、かつ鮮明に歌った、万人に愛される名曲。

『荒城の月』 $\frac{4}{4}$ ・ハ短調。同声二部合唱。坦々とした旋律の中に深い情緒を感じさせる。

『浜辺の歌』 $\frac{6}{8}$ ・ト長調で始まり、変イ調で終わる。鄙びた夏の海を連想させるが、三枝の編曲はさらに情緒的。

『石臼の歌』 $\frac{3}{4}$ ・ホ短調。余り知られていないが、佳曲である。秋の日、輪廻の如く回転する石臼は粉を碾き、わが悲しみを押しひしぐ。「ついに輪廻の力乃ばざる…めぐり合うとも直ぐ別れにて…この秋は風肌に辛からん…しらじらと散りなじむ粉にまみれては音立てて手白曳きつつ…」

『雪のふるまちを』 $\frac{4}{4}$ ・イ短調。『夏の思い出』とともに、中田喜直の合唱曲の中では人気・知名度の点で双璧。前半の短調から後半の長調への転調、かなり複雑な和音構成には、微妙な色彩感があり、その辺りに人気の秘密があろう。

『ペチカ』 $\frac{4}{4}$ ・変ホ長調。同声三部合唱。バスの低音の動きには、一種ロシア的なニュアンスがあり、すべてを包み込むような暖かさを醸し出している。（富増）

### 三声のミサ曲……

ウィリアム・バードは、16世紀から17世紀にかけて、イギリス王室礼拝堂の音楽家として活躍した作曲家である。当時のイギリスは、ちょうどエリザベス1世の治世の頃にあたり、あらゆる面で国力の最も充実していた時になる。シェイクスピアなどと共に、当時のイギリス文化を代表する人物と言える。ただ、バード自身は、宗教的には敬虔なカトリック教徒で、国教会が主権を持っていた当時の社会の中では、微妙な立場に立たされていたという事にもなる。

今回演奏する『三声のミサ』にはそのような背景がある。気品のある音の響きの中に、バードの信仰心のみならず、強い意志の力を感じるとる事も不可能ではないだろう。日頃、キリスト教的な意味での信仰心とは縁の薄い生活を送っている我々が、このような曲を取り上げる事には、かなりの無理な面があるのは事実であるし、その上に技術面も考え合わせれば、無謀と言えるかもしれない。しかし、このような「強い意志に支えられた美」に感動する事は、洋の東西を問わず可能な筈である。その感動にどれだけ近づけるか、やってみるだけの価値はあるに違いない。（上柴）

### Sea Chantyと黒人霊歌……

Sea Chantyと黒人霊歌は共に、私達が現役時代に好んで歌ったレパートリーで、前者は英米民

謡の一種（労働歌）とされ、後者はアメリカ黒人から生れた宗教的な民謡の一種とされています。

元来、Sea Chantyは、錨を巻き上げるような継続的な長い努力を要する時に歌われた「Windless Chanty」と大勢でロープをひっぱる時に歌われる「Hauling Chanty」の二つの作業歌であったとされています。

イギリス海軍（Royal Navy）で歌い継がれてきた水夫の歌と、イギリス商船（Marchant Service）の水夫の労働歌として発生したものですが、帆船が蒸気船になると共に船上での歌が陸上でも歌われ、更に歌手によって音楽的に歌われるようになり、ブームにもなったとされています。

全体的には、イギリス民謡の基調は保たれていますが、歌詩は、特有の海員のことばや、即興的な替歌が定着したものや、作業歌のほかに寄港地の娘達との離別の歌、伝説上の女性を思う歌等々があります。

第1曲『Shenandoah』（インディアンの娘を恋する歌）は、ソロ（演奏はソロパート）が歌い出し、続いてコーラスが歌う型で、第2曲『Erie Canal』（アメリカ・ニューヨーク州オルバニィからエリー湖畔のパツファローまでの運河の生活を歌ったもの）と、第3曲『Sailing, Sailing』（出帆の歌）は、ソロとコーラスのかけ合いの型をとっています。

一方、黒人霊歌は、19世紀の初頭アメリカ南部で、奴隷の黒人達が虐げられた辛く苦しい生活からの解放を、宗教的な祈り（キリスト教）に求め、魂の叫びとなって生れたものとされています。

現在、黒人霊歌が歌われるのは、宗教音楽としてではなく、この歌が極度に虐げられた人間の、その根底に流れる怒りと叫びを秘めていることが、私達を大きく揺り動かすからではないでしょうか。また、この黒人霊歌がアメリカ民族音楽に与えた影響は大きく、ブルースの起源をここに見ることができ、次いで、アメリカ・ジャズの発生をうながしたことを考えると、その意義は大きいと思われるます。

本日演奏の4曲は、いずれもよく知られている霊歌ばかりですが、特に『Dry Bones』は、旧約聖書の中の「エゼキエル書」にもとづいたもので、37章の「枯骨の谷」の幻が題材になっており、エゼキエルが谷底で枯骨を人間に復活せしめるといふ記事によるものです。これは、当時バビロンの捕囚となったイスラエル民族を、彼が覚醒せしめるといふ意味を内在するもので、アメリカにおける黒人ニグロにも共通する何ものかがうかがわれます。曲は、半音進行により、足、膝、腰、背、肩、頭の骨を表わし、それが音を立てながら順番に結合されていく光景を歌っています。

（今西）

# PROFILE

**松平 季子** 大阪音楽大学専攻科修了。  
 斎木幸子、木村絹子氏に師事。  
 ミュンヘンに留学、ローレフィッシャに師事。  
 東ドイツ、オーストリア各地で、歌曲のコンサートに出演。  
 1981年、音楽劇のソリストとしてパリ公演に招かれる。  
 1974年・1984年大阪、1986年ブリュッセルにおいて、ジョイントリサイタル開催。  
 喜歌劇楽友協会の公演『こうもり』のロザリンデ、『ボッカチョ』のベアトリーチェ、『ジブシー男爵』のザッフィー等を演じ、好評を博す。  
 喜歌劇楽友協会会員、日本演奏家連盟会員。  
 中川泰治第2回・第3回・第4回独唱会に賛助出演し、『日本の笛』、歌劇の aria、デュエット曲等を共演。  
 みおぎ会指揮者。



**名倉 佐紀子** 昭和56年、大阪音楽大学音楽学部ピアノ専攻科卒業。  
 吉田見知子氏、永井淳子氏に師事。  
 関西OB交響楽団、関西フィルハーモニー交響楽団とピアノコンチェルトを共演のほか、大阪でジョイントリサイタル開催。また、福岡県、山口県においてもリサイタルを行うなど、ソリストとして活躍するのみならず、管弦打楽器、歌曲、オペラの伴奏者としても、幅広く活躍している。  
 中川泰治第3回・第4回独唱会で伴奏。  
 みおぎ会伴奏者。

## みおぎ会

大阪市立大学女声合唱団のOGのコーラスグループです。この名称の由来は、大阪市の市章の「みおつくし」(滯標=大阪港の入口に立っていた木製の航行標識)で、グリークラブOBの南漕会と兄妹関係にあります。しかし、残念ながら、現役の女声合唱団は昭和42年に消滅しておりますので、新卒者の補充がない限定されたメンバーのまま、高齢化の進む中で頑張ってきました。少しでも若いうちにと、昭和62年11月23日に、初めてのリサイタルを開催しました。そして昨年(平成元年)8月には、念願の海外演奏旅行を計画してシンガポールを訪ね、現地日本人の女声コーラスとの交歓演奏会などを挙りました。また、昨年の第4回中川泰治独唱会に賛助出演し、『月と良寛』を演奏しました。南漕会合唱団の定演への賛助出演は、今回で5回目になります。



## 司会

流暢な語り口でお馴染みの、白石公子さんに今回も、司会の役をお願いし、快くお引受けいただきました。厚く御礼申し上げます。

神戸市出身

大阪市立大学生活科学部社会福祉学科卒業。

現在、フリー。

## 表紙絵

毎回、カラフルな美しい表紙絵を提供してくださっている、河原碧子先生にお願いして、今回もこのパンフのために、新しく絵筆をとっていただきました。ご好意に深く感謝いたします。  
 大阪市立大学住居学科卒業。  
 日本画家。河原デザインスクール理事長。

## 南漕会合唱団

南漕会合唱団は、大阪高商・大阪商大・大阪市大グリークラブのOB六百余名で構成されている「南漕会」を母体とし、その会員のうち、常時合唱活動に参加できるメンバーをもって組織しています。

大阪市大グリークラブは、創設以来65年の歴史をもつ、学内でも有数のクラブですが、南漕会もまた、昭和15年(1940)に創立され、本年50周年を迎えました。創立時に第1回演奏会が開かれ、その後、昭和30年(1955)頃から現役グリークラブの定期演奏会に賛助出演し、また、昭和39年(1964)には第2回の演奏会が行われました。

このような経過を経て、昭和55年(1980)に母校が建学百周年を迎えるのを契機に、その前年、南漕会組織の結束をはかり、それを母体とする合唱団体制が再編されました。その後、合唱活動を継続し、昭和55年(1980)3月8日に、十数年ぶりに演奏会を復活して、隔年開催を定着させ、ここに第8回を迎えました。

このほか、定例的行事としては、昭和56年(1981)から毎年5～6月に開催される『五つのOB男声合唱の集い』(京大・大阪市大・東京大・大阪大・神戸大OBによる「ANCORの会」)、母校創立記念の音楽祭などに参加しています。

転勤や家庭の事情などのため、メンバーの固定化が困難で、パートバランスに悩み、増員はおろか減員をくいとするのが、ひと苦労の実情ですが、男声合唱に対する情熱と意欲をもって、今後も歌い続けていきたいと、願っています。

**谷岡 理恵** 1985年、相愛大学音楽学部ピアノ専攻科卒業。  
 卒業音楽会、読売新人演奏会に出演。  
 1986年、相愛大学研究科修了。  
 宮越精三郎追悼演奏会、「現代の波」音楽祭に出演。大阪シンフォニカと共演。  
 1987年、第2回日本現代音楽ピアノコンクール入選。  
 清水啓子、故宮越精三郎、向井滋子、沢村千栄子、練木繁夫の各氏に師事。  
 1982年から南漕会合唱団伴奏者。  
 (南漕会合唱団・谷岡昇の長女)



**今西 真理** 同志社女子中・高マンドリンクラブでマンドリン・マンドラ奏者として6年間在籍。  
 同志社大学法学部卒業。  
 (南漕会合唱団指揮者)  
 (今西弘一の長女)

**杉原浩太郎** 大阪市立大学文学部1回生、グリークラブ所属。

**団 長** 上田 稔  
**幹 事 長** 石井 欽三  
**指 揮 者** 今西 弘一  
 上柴 克  
 富増 和彦  
**マネージャー** 名和 秀記  
**会 計** 齋藤 三朗  
 大田 徳隆  
**パート委員** 新 栄一郎  
 大田 徳隆  
 横田 卓郎  
 桂 貞夫

**連絡先** 上田 稔  
 (06) 536-7545

## 次回ステージ予定

『五つのOB男声合唱の集い』  
 第10回記念演奏会  
 1990年6月3日(日) PM2:00  
 大阪国際交流センター大ホール

## 南漕会合唱団メンバー

(1990年3月)

第1テナー	第2テナー	バリトン	バ ス
村上守男 (31商)	今西弘一 (32経済)	*中川泰治 (19学部)	栗山 功 (32経済)
齋藤三朗 (34経済)	大橋邦宏 (38理)	石井欽三 (26高商)	桂 貞夫 (34法)
新 栄一郎 (46商)	大田徳隆 (42経済)	上田 稔 (28文)	作田達也 (34商)
植村正昭 (59工)	上柴 克 (59文)	石川健夫 (31経済)	寺前芳博 (34文)
北 正己 (62経済)	富増和彦 (61商)	谷岡 昇 (32理工)	中島泰典 (37法)
		横田卓郎 (35経済)	井上知三 (37商)
		米田直也 (35法)	小関光男 (38経済)
		坂口敏宣 (62商)	名和秀記 (61法)

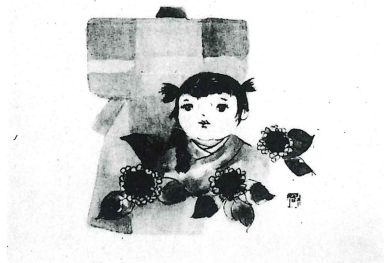
\*特別参加

( ) 内は、卒業年次(昭和)と学部

# デザイン・美術工芸教育

グラフィック・編集・インテリア・彫金工芸・モード

20余年



夢教育

プロを育てる名門校

## 河原デザインスクール

大阪市北区中之島3-2-4 朝日新聞ビル

TEL (06) 203-4754 (代表)

KAWAHARA DESIGN SCHOOL

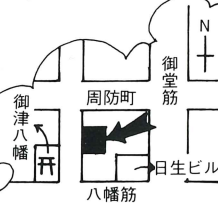
# ブライトリー・ナイト イン

白いピアノと花いっぱいの  
ロマンチック・ラウンジ  
 트렌디なエコースティック・サウンドで  
今宵も主役は“あなた”です。

ミュージック・ラウンジ **ココ**

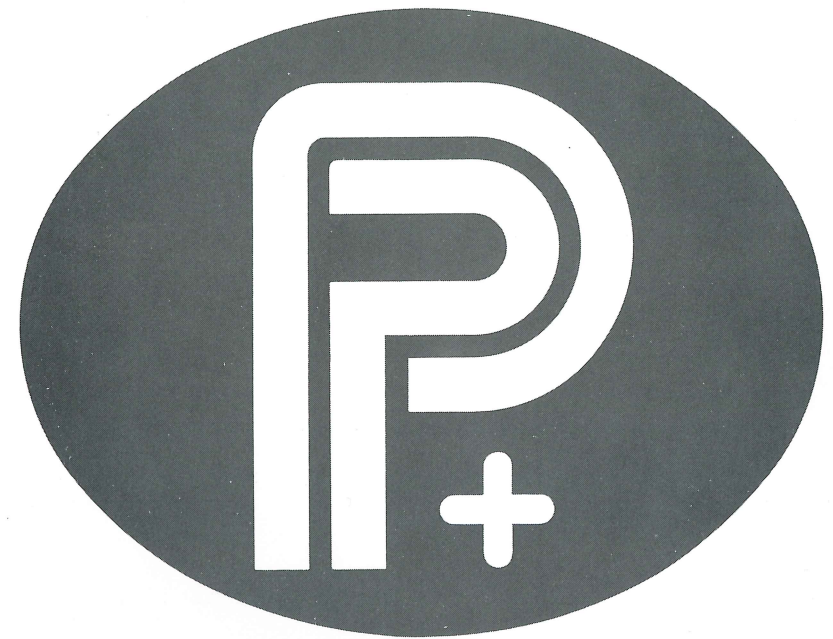
大阪市中央区西心斎橋2-1-18 ニタヤビル2F

☎ (06) 213-9011・7602



プラスチックに  
プラスを

これが21世紀に向ってのRP東プラの願いです



# アルピイ RP東プラ株式会社

東プラ + 竜舞プラスチック + 東洋樹脂 = RP東プラ

1988.4.1

1989.4.1

RP東プラは東西にまたがる経営拠点を活かして  
皆様のお役に立ちたいと願っております。

代表取締役社長

中川泰治

本社一大阪、営業所一大阪・東京、工場一群馬・滋賀・大阪